十島村教育委員会だより　令和３年２月号

むわやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

こどもたちの挑戦」

十島村教育長　有村孝一

3学期もあとわずかです。学年のまとめをする季節になってきました。そんな時に、嬉しいニュースが飛び込んできました。

毎年県の学校新聞コンクールには村内の各学校が応募しています。今年は、口之島小中学校の「タモトユリ」が1席を受賞しました。そんな中で、今度は宝島小中学校が全国に挑戦しました。毎日新聞社が主催します全国小・中学校・ＰＴＡ新聞コンクールにおいて、学校新聞の部で内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞に次ぐ優秀賞全国新聞教育研究協議会賞とパピルス賞を受賞しました。村の学校新聞が県内にとどまることなく、全国へ挑戦した結果でした。

また、毎年行われます南日本新聞社主催の「南日本作文コンクール」の審査結果も発表されました。県内の作文コンクールでは最も難しいとされ、字数も多いコンクールです。十島村からは、小宝島小が2席、諏訪之瀬島小が3席、宝島小が3席と入選2人と5人が入賞しました。宝島小学校は、学校賞の奨励賞を受賞しました。過去には諏訪之瀬島小と小宝島小が学校賞の椋鳩十賞を受賞しています。本当に素晴らしいことです。

これらのことは、日常的に書くことに力を入れた指導がなされているということと、村全体が挑戦しています新聞の「若い目」などへの投稿により、書く力が高まってきたということも言えると思います。これからも続けていってほしいものです。

今度は、県図書館協会が主催しました「毎日23日は子供と一緒に読書の日」ポスター原画コンクールにおいて1000点の出品数の中から、最優秀賞、優秀賞に次ぐ特選と入選に諏訪之瀬島小学校の児童3名が入賞しました。そして140校の参加校の中から学校賞に選ばれました。(学校賞は2校でした)

子どもたちだけでなく、先生方も頑張っています。先日鹿児島地区教育論文・実践記録文審査会が開催されました。今年度は鹿児島地区で２８２点の応募がありました。本村からは、ほとんどの先生方が論文に応募しました。地区全体で、特選は３９点でありましたが、うち１４点が十島村でした。村の出品数の２０.２％が特選に入ったということになります。特選の中から１１点が教育論文・実践記録集「波動」に掲載されますが、十島村からは、４点が選ばれました。

教育論文は、それぞれの先生が、この一年間に研究したこと等のまとめになります。研究をまとめるということが、先生たちにとっても有意義なものであり、その事が児童生徒の学力の向上につながっていくことになります。

子どもたちも先生方も共に頑張る十島村の学校です。地域の方々も見守ってあげていただきたいと思います。

今月の「十島パワーにパチリ！」

【村長賞　宝島小・中学校「チューリップ定植」】

【授賞式の様子】

毎年「花いっぱい運動・あいさつ運動」の計画を春に立て、十島の島々を花いっぱいしようと取り組んでいます。今年も一年間の成果について表彰式をおこないました。その結果をお知らせいたします。４月からも各島が花いっぱいになるようにご協力ください。

村　長　賞　宝島小・中学校
議会議長賞　口之島小・中学校
教育長賞　悪石島小・中学校
努　力　賞　中之島小・中学校　諏訪之瀬島小・中学校
　　平島小・中学校　小宝島小・中学校

【新聞に投稿】

令和２年12月5日 南日本新聞「若い目」掲載

「少しの不便さ」

中之島中学校一年　滝口　瞬季

僕が中之島で好きなところは、「少しの不便さ」です。

たとえば、何か欲しいものがあってもすぐに買うことができないので、その場は我慢して無駄遣いしないですみます。僕は中之島に来るまでは無駄遣いをしてしまい、お金をためることができず、本当に欲しいものがあっても買うことができなくてあきらめてしまいました。しかし、今は無駄遣いせず、本当に欲しいものが出てきたときに買うことができます。また、買うまでの間、本当に欲しいものかどうか考える時間も持てるようになり、買うまでの間のワクワクした時間を楽しむことができます。

これからも「少しの不便さ」を「楽しみ」に変えて、中之島の生活を楽しみながら過ごしたいと思っています。

令和２年１２月15日南日本新聞「若い目」掲載

「対馬丸の悲劇伝える大切さ実感」

悪石島中学校三年　久永ひかり

学習発表会で対馬丸について劇をした。

対馬丸は太平洋戦争中、沖縄から長崎に向かう途中で撃沈された疎開船だ。高齢者や女性、子どもが乗っていたが、その多くはなくなった。

私の住んでいる悪石島のすぐ近くで沈んだ。

本番に向け、動きや表情、話し方を工夫し、練習した。道具も当時を想像して、自分たちで作った。劇全体を通した時はそれまでと違う感動があった。対馬丸の悲劇に係った人の気持ちを感じることができる劇になった。当日は見に来た人の心に響く劇を披露できた思う。「当時の様子を想像しながら見られた」「涙が出ました」などの感想も頂いた。見る人の心を動かすことができてよかった。児童・生徒全員で協力し、劇を作り上げたことは忘れられない出来事になった。

そして、対馬丸という戦争の悲劇を演じたことで、私たちの学校が毎月対馬丸の慰霊碑を掃除する意味と地域の人々や後輩たちに伝えていくことの大切さも知ることができた。

子供のうた

令和三年一月十日　南日本新聞掲載

一字ちがいで
ほん　一字ちがいで
ほし　一字ちがいで
すし　一字ちがいで
かし　一字ちがいで
かき　一字ちがいで
かい　一字ちがいで
かに　一字ちがいで
わに
一字ちがいで
ほんが　わに　になった

（小宝島小三年　三浦　和奏）

十島村で学ぶ

【諏訪之瀬島で学ぶ】
諏訪之瀬島小学校５年　吉田　澗

私は、今年四月、諏訪之瀬島に家族五人で移住しました。それまでは、東京にある小笠原諸島の父島で生活をしていました。

諏訪之瀬島と父島とでは、違いがたくさんありました。一番印象的だった大きな違いは火山です。小笠原諸島には火山がなかったので、噴火した時の音や高く上がる煙、砂みたいに降ってくる火山灰にビックリしました。

学校生活で一番おどろいたことは、人数が少ないことでした。同じクラスの人は、二人しかいなくて最初はとまどいましたが、今は慣れて学習にじっくり取り組むことができるようになりました。

将来は、スポーツ選手を支える仕事につきたいと思っています。理由は、何もわからずに島に来て多くの人に支えてもらい、不安だった気持ちを温かい気持ちでいっぱいにしてもらったからです。人を支えるためには、自分がしっかりとできないといけません。スポーツについての知識を深め、専門的なことを学んでいくことができる力を、この諏訪之瀬島で身につけていきたいと思います。

【小宝島小・中学校からのメッセージ】
教諭　三浦　和也

小宝島に赴任して２年が経とうとしています。前任校では、あまり自分の子どもたちと一緒に過ごす時間はありませんでしたが、今では一緒に学校へ登校し、一緒に学ぶ時間さえもあります。家族と過ごす時間も増え、充実した毎日を過ごすことができることに感謝です。

今年度は、小学校の修学旅行がありました。コロナの影響で実施できるか心配された中、延期という形ではありましたが、１０月に実施することができ、教育長先生をはじめとする多くの方に感謝するばかりです。

７島の学校の５・６年生が集まる十島村の修学旅行。ほとんどの子どもたちが初めて会うにも関わらず、３泊４日をこんなにも仲良く楽しく過ごすことができる十島村の子どもたちに感心させられっぱなしでした。大事な資質・能力だと思います。これも、これまで十島村の先生方が培ってきた成果なのだと感じます。私たちは、その成果を受け継ぎ、これからの子どもたちへ伝えていかなければならないのだと思います。未熟な私ではありますが、小宝島の子どもたちのため、十島村の子どもたちのため、尽力したいと思います。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

修学旅行では、子どもたちだけでなく、日頃会えない先生方とも３泊４日じっくり話すことができ、良い刺激をいただきました。もっと先生方と話をして、学ばなければいけないなと感じました。だからこそ、島は海で隔てられていても、繋がりを大事に、学校は繋がっていきましょう。よろしくお願いします。